

5 本プランの目標

都では、これまで、観光関連の総合的な計画の中では国内外からの旅行者数を数値目標として定めており、平成25年5月に策定した「東京都観光産業振興プラン」でも同様の目標設定を行っている。

しかしながら、観光を取り巻く環境が急速に変化して、その影響は経済の活性化など、様々な分野に及んでおり、観光振興の目指すべき目標もそれに応じて多様な視点から設けることが不可欠となっている。

政府が平成28年3月に公表した「明日の日本を支える観光ビジョン」では、新たな目標として、訪日外国人旅行者数に加え、訪日外国人旅行消費額や外国人リピーター数、日本人国内旅行消費額など、複数のテーマを掲げている。

こうした状況を踏まえ、観光実行プランでは、従来の旅行者数に加えて、新たに外国人リピーター数や消費額などの質的な面に着目した目標設定を行う。

総合目標

訪都外国人旅行者数

- 2020年には、**2015年の約2倍**に当たる**2,500万人**を目指す。
- 2024年には、**3,000万人**を目指す。

2015年：**1,189万人** → 2020年：**2,500万人** → 2024年：**3,000万人**

外国人リピーター数

- 訪都外国人旅行者数(目標値)の**60%**を目指す。

2020年：**1,500万人** → 2024年：**1,800万人**

訪都外国人消費額

- 2020年には、**2015年の約2.4倍**(過去5年間の伸び率)に当たる**2.7兆円**を目指す。

2015年：**1兆1,150億円** → 2020年：**2兆7,000億円**

訪都国内旅行者数

- 2020年には、新たなレベルとなる**6億人**を目指す。

2015年：**5億1,670万人** → 2020年：**6億人**

訪都国内旅行者消費額

- 2020年には、2015年比で約1兆円増の**6兆円**を目指す。

2015年：**4兆8,470億円** → 2020年：**6兆円**

政策目標

政策目標		目標年次	目標値
観光案内の充実	新たな観光情報センター(多摩)の整備	2017年度	1か所
	広域的な観光案内機能を担う拠点の整備	2019年度	外国人が多く訪れる10地域(※)及び東京2020大会会場周辺
	「街なか観光案内」の展開	2019年度	
	観光案内窓口の拡充・機能強化	2019年度	外国人が多く訪れる10地域内に200か所程度
デジタルサイネージの歩行空間での設置		2019年度	100基程度
観光案内サインの設置		2019年度	600基程度
外国人旅行者の無料Wi-Fi利用環境に対する満足度		2020年	90%以上に向上
無料Wi-Fi利用環境の向上	Wi-Fiアンテナの設置	2019年度	Wi-Fiアンテナを内蔵するデジタルサイネージを含め700基程度設置
ボランティアの育成・活用	観光ボランティアの活用	2020年	3,000人
	おもてなし親善大使の育成	2020年	1,000人
アクセシブル・ツーリズムの推進	都の支援による宿泊施設のバリアフリー化	2019年度	130件
	都の支援による観光バス等のバリアフリー化	2019年度	50台
国際会議の開催件数		2024年	世界トップスリーに入る330件

※ 外国人旅行者が多く訪れる10地域…新宿・大久保、銀座、浅草、渋谷、東京駅周辺・丸の内・日本橋、秋葉原、上野、原宿・表参道・青山、お台場、六本木・赤坂